

第4回京丹波町総合計画審議会 会議概要

日 時 平成28年2月22日（月） 午後1時30分～2時30分
場 所 京丹波町役場 議場
出席委員 総合計画審議会委員（欠席：梅原委員、櫻井委員、岡本委員、寺尾委員、
杉浦委員）
事務局（伴田参事、久木課長、石崎主幹、堀室長、田中係長、正田主査）

1 開 会

中西会長 本審議会につきましては、5月27日の第1回審議会から審議いただいて、全体会・部会を含めて6回にわたって検討いただいた。人口減少における京丹波町の方針である京丹波町人口ビジョン、京丹波町創生戦略をとりまとめ、昨年11月5日に第1次答申として寺尾町長に答申をさせていただいた。これをうけて町では、11月20日付けで策定いただいた。この間皆さんに慎重審議いただいたことに対して改めてお礼を申し上げる。

本日の審議会では、この戦略をもとに平成28年度に策定される第2次京丹波町総合計画の策定に向けて、計画の方向性、期間、今後のスケジュールを審議いただくために開催した。

先に策定された京丹波町創生戦略の位置づけについても、この中でご意見をいただこうと考えているので、積極的なご意見をいただきたい。

畠中副町長 昨年、熱心に審議いただいた。昨年の京丹波町を取り巻く情勢は本当に目まぐるしく、著しく変わってきたように思う。

縦貫道が通ったり、味夢の里がオープンして大変多くの皆さんに来ていただいたり。そうする中で、最近でも映画というか、鳥インフルの跡地に映画撮影の話が出てきた。

3月26日には、国定公園が認定されるという日程が決まっている。夏休み前には、丹波自然運動公園内にトレーニングセンターがオープンする。そういったところで、本当に日1日と状況が変わっている。いずれにしても、町を取り巻くものはいい状況ができつつあるのではないかと思っている。そういう時期であるだけに、本日審議いただく第2次京丹波町総合計画策定については、非常にタイムリーなものと思っている。客観的事実を踏まえて、来るべく将来に向けての礎石づくりだと思っている。それぞれの立場において最先端で活躍の皆さんばかり。どうか皆さんの鋭い感覚で審議いただき、住民の皆様方に将来の発展の指針を出していただければありがたい。大変な作業で心苦しいがよろしく願います。

事務局 前回、第3回の審議会以降に京丹波町議会の委員会構成が変わり、それぞれ常任委員長が交代された。議会推薦の委員ということで、あらためて3人の方に出席いただいた。

それぞれ名簿をつけていますのでご覧いただきたい。まず、総務文教常任委員長であります山下委員。

山下委員 山下です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

事務局 続いて産業建設常任委員長の原田委員。

原田委員 皆さんこんにちは。どうぞよろしくお願ひします。

事務局 前は総務文教常任委員長としてお世話になり、今回福祉厚生常任委員長として梅原委員にお世話になりますが、本日は欠席です。

それでは、審議に入ってください、その前に資料をつけている答申の関係は、会長から報告があったので省略させていただきます。

創生戦略は総合計画より1年早く進めているが、その創生戦略の策定が11月20日で、その日が平成28年度の当初予算の編成方針が定められた日だった。当初予算についても、創生戦略の事業を盛り込んで進めているが、国のほうで補正予算が通って、地方創生加速化交付金が決まり、並行して補正予算にも対応するため、京都府を通じて国とも協議しているところ。定まったら予算という形で報告させていただきます。

では、第2次京丹波町総合計画策定に向けてということで、審議いただく。

2 第2次京丹波町総合計画策定に向けて

① 総合計画の策定体系について

中西会長 それでは、進行させていただきます。

最初に第2次の総合計画策定に向けて、策定の体系について、事務局のほうから説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明。

中西会長 事務局から説明があったが、今後の取り組み・体系について、ご意見等ありますか。

委員 コンパクトにということだったが、現状と課題のところを文章で書いてあるのをもう少しわかりやすくということか。

事務局 コンパクトというのは、現状と課題をしっかりと分析するということで、評価シートから抜粋していくような形でもう少し分かりやすく表現していきたい。ここに成果目標を加えると申し上げたが、計画に書いていければと思っている。まとめ方は最終段階になると思うが一定の枠組みを決めたいと思っている。

委員 数値目標を入れてもらうことによって、進行状況とか、今後の目標とか、具体的に良くなるのではないかなと思う。

事務局 次のところで説明する部分でもあるが、数値目標を加えることについては、昨年策定した総合戦略で数値目標が必須になっており、その創生戦略をどういった形で国が示すのかわからない状況。その中で、総合計画を来年度立てるにあたり、創生戦略に役立てるような、そういった計画になれば一番いいと思っている。数値目標を加えるのも案と考える。会長が言われた「見える化」という意味でも良いと思う。

中西会長 ほかに何かありますか。

中西会長 それでは、この方向で進めていいですか。

(反対意見なし)

② 総合計画の計画期間等策定の方向性について

中西会長 次に、方向性について、事務局から説明をお願いします。

事務局 資料に基づき説明

中西会長 ただいま事務局から説明をいただいたが、計画期間の見直しについてご意見ありますか。

委員 案としては、6年ということだが、国定公園とか、運動公園、味夢の里ができていろいろ変わってきている。これらで現状と変わってくるのではないかと。常に変わっていく中で手を打っていかないといけない状況。6年置いて修正するのはいかがか。皆さんの意見を聞かせてほしい。Iターンの人を受け入れるなど、いろんなことをして動きを作っていこうという中で、6年というのは長いのではないかと思う。

最近の状況の変化は早い。良い方向に変わるのなら良いが、逆もある。

委員 私も経済活動をしていると、オリンピックまではいける雰囲気はあるが、それ以降は見えないところがある。3年くらいが一番いいのかなと思う。

委員 極端にかえるということではなく、せつかく数値目標を出すということなので、当然町の内部でやっていただくことだが、数値目標も変えていかないといけなくなる。そのまま挙げていてどうなっているのかとなるのは、少しいかがかと思う。

中西会長 せつかくですからご意見ををお願いします。

委員 世の中の変化は非常に早い。3年先5年先のことはわからない。必要に応じて見直しというところでよいのではないかと。

中西会長 ここでまとめるものでもないのだから、進めていくものなので、必要なのかなということも含めて最終案に持っていくということよろしいか。

(異議なし)

では、そういう方向でお願いします。

事務局 とりあえず28年度まとめていただく際に、目標とする期間をここで決定いただきたい。6年にするのか、3年にするのかはここで図っていただきたい。今、意見をいただいた3年にするのか、6年にするのか、5年にするのか、もう少しご意見をたまわりたい。

委員 方法論としては、10年を基本計画としておいて途中で見直すという考え方はないのか。

事務局 基本構想は10年だが、とりあえず平成38年でいって、それ以降は4年ずつでいくということで提案したもの。平成31年で見直して34年で見直すということが良いのかということをご議論いただきたい。

委員 6年が良いのか、3年か。必要に応じてではだめということ。大きな見直しはないと思うが。

事務局 補足といいますか。最初の基本構想というのは、あるべき姿なので10年が必要と思う。基本計画は、3年から5年くらいのスパンで状況が変わってくると思うので、ある程度状況も見ながら必要に応じて見直しというのはあいまいだが、ある程度期間をかける施策をうっていくものもあるし、時代の変化に応じて変えていかないといけないものもある。原案では「必要に応じて」にするしかなかった。これを決定して審議に入っていただきたい。

委員 ひとつづくりなどは、それほど変わるものではないし、中身によってあまり変わるのはいかがでしょうかというものもある。あまり見直しということではなしに、修正という意味で、3年くらいで修正するのがいいのではないか。

委員 今の時代ははやりというか、価値観が早いスピードでかわる。私も3年くらいで変えていったらいいのではないかと思う。長くても3年かなと思う。

事務局 3年という話もでていきますので、ご意見をいただきたいが、基本計画は、まちづくりの基本指針を担っているもの。大きな柱を見直すという観点ではなくという意見がでていいる。そういう意味では、実施計画で毎年3年先を見通して見直していくと書いている。基本計画を3年ごとに見直すのもひとつの方法。ほかの期間でいうと4年くらいが良いかと考えている。

基本構想というのは大きなビジョン。基本計画はそれにもとづいた大きな柱。個別具体的な計画は実施計画で対応していく。3年ごとということであると少し見直すタイミングがずれていくのかなと思う。平成29～31年はいけても次のタイミングは4年になる。そのあたりもご意見をいただきたい。

委員 実施計画の見直しというのは、庁内でということか

事務局 現在のところは、庁内でしている。皆さんの目に触れていないので、ここをもう少し次の計画では、毎年見直してどういった方向に進んでいるのかを示しやすいものにしていきたいと考えている。

実施計画は、なかなか作成に時間のかかるもの。計画として動いていないものも

ある。そういう意味でも見直していきたい。

その上の基本計画は柱になるものなので、4年ごとに見直すのがいいのかと考え、最初は6年、その後は4年ということで案を示した。

委員 確かに、基本計画を大きく見直すとなんだったのかということになるので、総合計画委員会は必要に応じて開催するというのか。審議会は、一定できれば終わりか。

事務局 必要に応じてというのは、審議会も該当する。

委員 それならわかる。

実施計画について庁内で見直して修正したものを審議会に報告して、必要に応じて審議会で検討するのなら6年でも問題ないのではないか。

委員 実施計画の中で、町内で数値目標も含めて見直しをしていただくということで、これが、2年目から見直しするというのか。

事務局 そういうことです。

中西会長 そのことを一定、審議会に報告していただき必要に応じて修正してより現実に近い形にして、6年目にはきっちり見直していくということで整理してよろしいか。

(異議なし)

中西会長 では、見直しは6年。それに向けて実施計画の中で2年目から見直しをしていただく。それを踏まえて審議会で必要に応じて集まっていたいで審議いただく。

③ 策定スケジュールについて

中西会長 今後のスケジュールの説明をお願いします。

事務局 資料により説明

中西会長 今後の日程について説明いただいた。総合戦略と同じような流れ。

事務局 今回のほうが少しボリュームは大きくなると思う。

委員 部会についても若干回数が増えるのか

事務局 部会についても、ばらつきはあると思うが増えることもある。

中西会長 この進め方でよろしいか。

(異議なし)

中西会長 次回は5月になるのか。

事務局 今、評価シートを取りまとめているので、4月終わりか5月のゴールデンウィーク明けをめどに全体会を開催して、部会で個別に議論いただきたいと考えている。

3 その他

4 閉会

山本副会長 先日、NHKで地方創生の時代に入ったと報道されていた。どの地方都市も人口減少に歯止めをかけるために移住者の奪い合いが始まったとのことだった。奪い合いというのはおだやかでないと思いながらそういう時代に入ったと感じた。京丹波町も良いところをアピールして移住しようと働きかける言葉を投げかけて、一人でも多くの人にこのまちでの生活を始めてほしいと思っています。この一年間がんばっていただきたいと思っています。よろしくお願いします。